

協定校留学【終了】報告書

※現地の様子や大学の風景、ご友人との写真を添付して頂けると大変参考になります。ご協力ください。
 ※帰国後2週間以内に提出(送信)してください。
 ※津田塾大学海外留学(派遣・受入)奨学金受給者はこの報告書をもって奨学金受給者報告書とします。

留学先大学	ディーキン大学	氏名	
国名	オーストラリア	学籍番号	
留学期間	2024 年 2 月 ~ 2025 年 2 月	記入年月日	2025 年 3 月 8 日

1 履修したすべての科目についてお書きください			
主な専攻分野: Arts and Education			
科目名	Global challenges and personal agency	科目名	Intercultural communication
授業内容	世界規模の問題に対して自分がどのように対処できるか考える授業。	授業内容	異文化コミュニケーションについて学ぶ授業。
授業形式	レクチャーとセミナー(各1時間)	授業形式	レクチャーとセミナー(各1時間)
単位数	1	単位数	1
サイズ	15人程度(セミナー)	サイズ	15人程度(セミナー)
難易度 Course No.	普通	難易度 Course No.	易しい
宿題の量	普通	宿題の量	少ない
コメント	ネイティブが多いクラスで、セミナーでのディスカッションについて行くのが大変だった。また、課題で求められていることがわからず、課題に取り組むのが大変だった。	コメント	ディスカッションメインのセミナーだった。トピックが比較的一般的で話しやすいのと、先生が面白かったため、授業の雰囲気も和気あいあいとしていた。
科目名	Media Relation Strategy	科目名	THE MODERN WORLD: GLOBALISATION AND FRAGMENTATION, THE 1940S TO THE 21ST CENTURY
授業内容	Public relationに関する授業	授業内容	歴史に関する授業
授業形式	レクチャーとセミナー(各1時間)	授業形式	レクチャーとセミナー(各1時間)
単位数	1	単位数	1
サイズ	10人程度(セミナー)	サイズ	10人程度(セミナー)
難易度 Course No.	難しい	難易度 Course No.	普通
宿題の量	多い	宿題の量	普通
コメント	メディア専攻の学生のための授業であり、自分は予備知識がなかったため難しかった。クリエイティブな課題があり、英語で表現の仕方を考える必要があった。	コメント	近現代史の授業。

科目名	COLONIAL ENCOUNTERS: FROM INVASION TO FEDERATION	科目名	INTRODUCTION TO SOCIOLOGY: THE SOCIOLOGY OF EVERYDAY LIFE
授業内容	オーストラリア先住民の歴史などに関する授業	授業内容	社会学に関する授業
授業形式	レクチャーとセミナー(各1時間)	授業形式	レクチャーとセミナー(各1時間)
単位数	1	単位数	1
サイズ	20人程度(セミナー)	サイズ	程度(セミナー)
難易度 Course No.	普通	難易度 Course No.	易しい
宿題の量	多い	宿題の量	少ない
コメント	アボリジニに関する2年生向けの授業。各課題(エッセイ)の文字数は多いが、トピックが面白かった。	コメント	ディスカッションメインのセミナーだった。トピックが比較的一般的で話しやすいため、比較的易しい授業だった。
科目名	INTRODUCING CRIME AND CRIMINOLOGY	科目名	LOVE, SEX AND DEATH
授業内容	犯罪学に関する授業	授業内容	哲学のテーマに関する授業
授業形式	オンライン、レクチャーとセミナー(各1時間)	授業形式	オンライン、レクチャーとセミナー(各1時間)
単位数	1	単位数	1
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.	普通	難易度 Course No.	普通
宿題の量	普通	宿題の量	普通
コメント	課題は、オンラインでのテストが一回と、提示されたトピックを選んで書くエッセイが二つあった。	コメント	愛と性、死に関する哲学的問題に取り組む授業だった。曖昧なテーマだからこそ、学術的な理論を用いて取り組むのは面白かった。
科目名	WORLD RELIGIONS	科目名	
授業内容	宗教に関する授業	授業内容	
授業形式	オンライン、レクチャーとセミナー(各1時間)	授業形式	
単位数	1	単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.	易しい	難易度 Course No.	
宿題の量	普通	宿題の量	
コメント	キリスト教、ユダヤ教、仏教、イスラム教について学べる授業。各課題は提示されたトピックの中から選ぶタイプだった。	コメント	

2	授業において困ったこと、その解決法について教えてください 初めは教授の話している内容が全く聞き取れず、配られたレジュメや授業の予習教材を参考しながら授業に参加していました。ディーキン大学では、講義とセミナーの時間が分かれており、セミナーでは生徒の意見交換が主でした。グループワークなどでネイティブの生徒同士の会話についていけないことがあり、話を止めてしまうのも申し訳なかったため、自分が思ったように議論に参加できないことも多かったです。セミナーの時間を変えたり、セミナーで議論される質問にあらかじめ目を通し、自分の意見をまとめておくなど、自分ができる範囲でより良い学習環境を整えるよう努力しました。最初は、英語論文の書き方が分からず、現地の友達に助けてもらいながら課題を進めました。オーストラリアは盗作、盗用に厳しいため、参考文献の引用の仕方や表記により気を配る必要がありました。
3	授業以外の活動についてお書きください 大学では日本クラブとバレーボールのクラブに主に参加していました。日本クラブでは、日本人も多数在籍しており、新しい友達を作ることができ、オーストラリアの生活に慣れる助けになりました。大学のバレーボールクラブはソーシャルメインだったので、バレーボールのレベルは高くありませんでしたが、色々な人と出会うことができました。Trimester 3はクラブ活動がなかったため、友達と他の大学のクラブや地元で開催されているバレーに参加していました。現地でアルバイトもしましたが、最初に働いたカフェのオーナーが中国人であり、労働環境がそれほど良くなかったため、3ヶ月ほどで辞めました。想像以上に現地で仕事を探すことが難しく、留学生だけでなく、現地の友達も仕事を見つけるのに苦労していました。
4	寮(またはアパート、フラット)の生活について教えてください 寮(またはアパート、フラット)名とその場所 Village、Shared Apartment、キャンパス 設備についての簡単な説明 初めはvillageと呼ばれるキャンパス内の家の寮で10人で暮らしていましたが、夜の騒音や衛生問題があったため、Trimester2が始まるタイミングでshared apartmentと呼ばれる6人の寮へ引っ越ししました。女子だけのオプションを選んだので、共有スペースも綺麗なことが多く、快適に過ごせました。その後、最終学期の申し込みに遅れたため、男女混合の部屋へ引っ越ししましたが、ホリデーシーズンだったため、男子二人しかおらず、トラブルもなく快適に過ごせました。それぞれの寮の共有スペースにはキッチン、卓球台、ビリヤードがあり、数人で料理をしたり、クリスマスパーティーなどの際に利用しました。また、シアタールームがあり、大学のNETFLIXが使えるため、予約をして友達と映画を見ることもありました。 部屋について 6 人部屋 広さ 6 畳くらい ルームメイトについて Villageではインド、パキスタン出身のルームメイトが7人、オーストラリア人2人でした。二つ目のshared apartmentでは、インド人2人、ベトナム人、ドイツ人、オーストラリア人でした。三つ目の男女混合ユニットでは、ドイツ人と香港人の男子2人でした。いずれも、挨拶する程度の仲で、程よい距離感で快適に過ごせました。 寝具や生活用品の入手方法 大学からトラムで20分ほどのBurwood oneというショッピングセンターにKmartがあり、キッチン用具や寝具はそこで手に入れました。現地に着いたばかりの頃は友達もおらず、全て手で運ばなければいけなかったため、大学とKmartを数日間かけて何往復もし他のが大変でした。生活用品は全て現地購入を考えていましたが、日本の製品は品質が良く安いので、最低限のキッチン用品(タッパー、カトラリーなど)は持ってくればよかったと後悔しました。留学から半年ほど経った時にBurwood oneに新しくアジア食料品店ができ、オーストラリアのスーパーにないアジア系の食品やお菓子はそこで手に入れることができました。また、大学からバスで20分ほどのBox hillという駅にダイソーがあったため、いくつかの日用品、食料品はそこで入手しました。ダイソーでは大体の商品が日本の3倍の価格でした。 生活の感想 大学はシティから1時間ほど離れているのに加え、大学の周りにはほぼ何もなく、買い出しや外食をするのにトラムかバスを利用する必要がありました。そのため、車を持っている友達と遊んだ時などに、買い出しを手伝ってもらうこともありました。初めに住んでいたVillageでは、ルームメイトが汚れをそのままにしたり、洗い物を数日間放置していたため、キッチンに虫がわいていました。また、夜中に人を呼んでパーティーをしたり、ユニット内のコミュニケーションが乏しかったりと、運が悪かったと思います。大学に相談しましたが、すぐに他の部屋へ移ることはできませんでした。
5	食事についてコメントを書いてください バイト先でパンの廃棄をもらうことがよくありましたが、体調を崩すことが多くなり、自炊に切り替え、なるべくバランスよく栄養素を摂るように心がけていました。友達からもらった炊飯器を使ってお米を炊いていましたが、日本の炊飯器のようにふわふわとした食感にできず、日本のお米が恋しくなりました。留学の後半では、近くに住んでいたインド、マレーシア出身の友達を呼んで一緒に作るが多かったです。オーストラリアの外食は値段が高いですが、量も日本の2倍ほどあるため、食べきれない分はテイクアウト用のボックスに入れてもらうことができ、次の日のご飯などにしていました。気づかないうちに胃が大きくなり、外食が完食できるようになったあたりで、次第に顔が丸くなり体調を崩すことが増えてきたので、特に食事には気をつける必要があると思います。

6	医療保険についてお書きください	
	渡航前に加入した保険	
	OSMA, Bupa	
	留学先大学にあった医療保険制度	
	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)	
	特になし	
7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)	
	(現地通貨)	
	渡航旅費	700 7万 円
	帰国旅費	600 6万 円
	引越し(往復で)	円
	保険	円
	語学研修費	円
	留学先学費	24,000 240万 円
	本学学費	2,100 20万 円
	教材費	円
	住居費	16,500 165万 円
	食費	円
	その他(携帯代)	150 1万5千 円
	()	円
	()	44,050 440万 円
	合計	円
	換算率 (1 AUD = 100 円)	
	受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください	
	津田塾大学 パイオニア・スカラーシップ	
8	留学前の準備について教えてください	
	日本から持参すべきもの	
	リップクリームやスキンケア(一年を通して乾燥がすごいです)、サンリオ・ジブリのグッズ(ステッカーなど)や、文房具(私の場合は現地でできた友達が日本の可愛いものが好きだったので)、日本の調味料、インスタント食品	
	留学前にしておけばよかったこと	
	携帯やパソコンの言語を英語にしておくことをお勧めします。友達が自分の機器を操作することも多く、また、何か説明するときに英語での言い方を知っていたのは役立ちました。また、英語の勉強だけでなく、インスタグラムやyoutubeで英語圏のトレンドや最近のスラングなどを知っておくことは、現地での会話に馴染むきっかけになりました。	

9	適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください ある程度話せるとはいえ、異言語での生活は自分が思っていたよりストレスが大きく、1日の終わりにには日本での生活と比べ物にならないほど疲れていました。私の場合は、英語での生活が自然になるまで、8ヶ月ほどかかりました。また、精神的に自分の思っていることを言えるようになるまで時間がかかったように感じます。グループで遊ぶ内容などを決める際に、周りの人に合わせるのではなく、自分が何が欲しいのかしっかり発言することで、互いの妥協点を見つけることができ、友情関係を深めるだけでなく、よりストレスのない生活を送ることができました。一年を通して数回友人関係のトラブルがありましたが、自分が思っていたことを正直に言えなかったことが原因でした。日本の文化では、暗黙の了解で行われる妥協のようなものがありますが、オーストラリアでは思ったことをすぐに相手に伝えることが大切だと学びました。
10	留学の成果(学習面・精神面)を教えてください 全体的な英語力の向上はもちろんですが、個人的には精神面での成長が大きかったです。初めて家族から離れて暮らしたので、初めは慣れないことだらけでしたが、精神的に自立し、より家族の存在に感謝するきっかけになりました。また、多様性について学ぶいい機会になりました。メルボルンにはさまざまな人種や国籍の人々が住んでいるため、宗教や人々のアイデンティティに関する理解が深まりました。今までは、周りの言うことや自分が他人からどう見られるか気にすることが多かったのですが、オーストラリアで人々の暖かさに触れ、自分の人生を応援してくれる友達に出会い、自分の選択により自信を持てるようになった気がします。帰ってきてから、友達から「刺々しさが抜け、より優しくなった」と言われるようになりました。
11	今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください メルボルンのコーヒーに感動し、バリスタになりたい気持ちが大きくなりました。そのため、大学卒業後はカフェで働くことを目標に就職活動を進めたいと思っています。数年後に留学先の友達が卒業し、オーストラリアから出てしまう人もいると思うので、もう一度メルボルンで長期滞在することを目標にしています。
12	留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします 私は幸運なことに、家族からの応援と後押しがあって留学を決意しましたが、金銭的、精神的な理由から、必ずしも全ての人が同じような環境にあるわけではないと思います。しかし、もしオーストラリアで得た経験を踏まえて改めて決断するならば、たとえ反対されても留学を選ぶと思います。それほど、私がオーストラリアでの留学で得た経験、現地で出会った人々は、何事にも変え難い人生の宝物になりました。留学する以前の私は、留学に対する漠然とした憧れが大きく、この一年がこれほど自分に大きな影響を与えるとは思いませんでした。もちろん、大学で留学することが全てではありませんし、人生という広い枠組みで捉えれば、自分を成長させる機会は何にもたくさんあると思います。留学を目指すみなさんが、どんな選択をしても悔いのない大学生活を送れるよう願っています！
13	その他、ご自由に意見を書き込んでください 正直なところ、オーストラリアが留学先として自分に合っているのかわからないまま留学しましたが、結果的には大正解でした。自然がたくさんあり、人がフレンドリーで、のんびりとした場所です。日本と比べると、公共交通機関やインフラ関係は圧倒的に不便でしたが、ご飯とコーヒーが美味しく、カフェ巡りが好きな人にはぴったりだと思います。

※本報告書は国際センターホームページに掲載します。下記のいずれかに✓をしてください。

国際センターホームページへの報告書の掲載を

(☐ 許可する(写真含む) ☒ 写真掲載のみ不可 ☐ 許可しない)

※Web掲載を許可する場合は、報告書は手書きではなくパソコン入力してください。
ホームページに掲載する際は、個人情報(学籍番号および氏名)は非公開とします。